

病院統合再編 職員派遣を実施

統合病院として来年4月1日に新たに「日本海総合病院」「日本海総合病院酒田医療センター」が開院しますが、11月1日から5か月間、円滑な移行と人事交流の一環として、22人の看護師が市立酒田病院から県立日本海病院に派遣されます。

それぞれの職員は、日本海病院の各病棟に配属され、日本海病院の看護師とともに看護業務を行いながら、業務方法の確認や電子カルテの習熟等、統合再編が順調に行われるように準備を始めることになります。

この派遣に伴い市立酒田病院では、一部の病棟・病床の配置の見直し等を実施することになります。

基本設計の設計業者の入札が行われました

現在の日本海病院に増築する施設の基本設計の入札が行われました。施設整備計画については、これまで、両病院の職員、県と市の職員で構成する施設部会でさまざまな検討を続けてきました。部会では、現在の建物の西側（小牧川

寄り）に120床程度の病床、救命救急センターの設置、外来診察室の増設、手術室の増設等が望ましいという検討がなされています。今後、設計業者が決定次第、協議が行われます。さらに各診療科各部門を交えて、施設内の配置等も詰めていくこととなります。基本設計は、増築する施設の具体的な配置場所や規模、概算工事費等を盛り込んで平成20年3月末に完了させることにしています。

統合再編Q&A

問 3月に策定された整備基本構想で、「緩和ケア、慢性期透析、人間ドック」をどちらの病院に配置するか、今後検討するとしていましたが、どのように検討され、どちらの病院で実施することになりましたか。

答 診療体制等を検討している医療機能部会では、「緩和ケア、慢性期透析、人間ドック」について、下表のような検討を行っています。最終的な決定は、今後、施設整備計画の進捗よくと併せて行われます。

	検討内容	部会での検討結果
緩和ケア	緩和ケア病床を、継続的ながん治療の一環として日本海総合病院（現県立日本海病院）に設置する案と、在宅医療への移行を勧奨して日本海総合病院酒田医療センター（現市立酒田病院）に設置する案。また、緩和ケア病棟を設置すべきかについて検討した	日本海総合病院に緩和ケア病床として、一般病床10床程度を活用し、緩和ケアチームが回診する形が望ましい
人工透析 (慢性期透析)	慢性期透析は、施設を改修して酒田医療センターに置く方がよいか、日本海総合病院に急性期透析と一体化して整備する方がよいか、透析を実施している地域の民間病院等と連携する方法などを検討した	慢性期透析に関して、酒田医療センターの一部を改修して透析室にする案は、建物の構造上困難であり、人工透析は日本海病院の現有施設で行うべきである。 日本海総合病院ではこれまでどおり、原則として急性期透析を行い、慢性期透析は、地域の民間病院等と連携を図る
人間ドック	人間ドックは、病院機能の分担や市立酒田病院に平成16年に新築した人間ドック棟の活用を考えて酒田医療センターにするか、医師、医療機器の配置から日本海総合病院に整備する方がよいかを検討した。 専門の病床を10床程度整備する方法のほか、宿泊については近隣のホテルなどを利用する方法も検討するべきとの意見も出された	施設整備完了までの移行期間においては、日本海総合病院、酒田医療センターの両病院で人間ドックを行う方向で調整する。この間、両病院の診療科・医療スタッフなどが連携しながら実施する方向とする。 施設整備完了後においては、多くの診療科の医師と内視鏡などの検査が関係することから、日本海総合病院に置く方が望ましい。 現在の日本海病院に増築する120床程度の病棟部分の中に、人間ドックに使用できるような個室（10床程度）を準備する方向で検討する

お問い合わせ／市企画調整課企画調整係 ☎26-10704